

R 5 . 1 2 . 1 5

第2号

通巻160号

# 学院通信

発行  
金光学院  
719-0111  
岡山県浅口市  
金光町大谷1486  
TEL(0865)42-3115  
FAX(0865)42-3114



直信教会参拝 (芸備教会)

道がおかげ

院長 伏代 信治



教祖様百四十年の本年も、学院として日に日に教主金光様の御取次を仰ぎ、皆様のお祈りの中、おかげを蒙ってまいりました。

学院生は、教祖様のご信心を生活の起居一切に現わすべく、けいこに努め、お育てをいただいております。全教のみ祈りを受け、教師が育てられていく伝統の中に、新たな導きをたまわり、それぞれに修行に取り組んでおります。

教祖様は、「金光大神は形がのうなったら、来てくれと言う所へ行ってやる」とのご理解において、どこへでも行ってやると約束してくださっています。自分の助かりのため、そして人が助かる御用のために、教祖生神金光大神様におすがりして、そばに来ていただいで助かりを得て、共に御用にお使いいただいでまいりたいと思えます。

「来てくれ」と言えばすぐに来てくださることですが、果たして、どうしても来ていただきたいという心になっていくだろうか、そう自問させられます。教祖様お隠れの後の百四十年は、お姿は見えなくても、そのご信心を学び、生活に現わすけいこを続けて、教祖様を追い求めてきた道の日々であったと思えます。学院においても、道を求める思いを強く持ち、「来てくれ」と教祖様を求め、信心を進め、心をときはなし、一層にお育てをいただいでまいらねばなりません。

学院生が教主金光様の御取次のもとにお育て、お導きをいただき、おかげの中にあることの喜びや安心に目覚める様子を目の当たりにし、私は皆様と共に生きる道こそがおかげであったと思わされています。個々の具体的なおかげだけではなく、それらのおかげがつながり物語となっていくプロセスこそがおかげなのであり、「神人の道」を一人ひとりの生活に現わし伝える御用に、共にお使いいただきしたいと思います。

学院生が日々修行に取り組む様子を見てみると、お道の将来が楽しみに思えてきます。天地と共にある生き方を進めて、私もせめてもの神様のお役に立たせていただきたいと願っております。

# 「ここ」までを振り返って

学院次長 秦 浩治

本科入学式から早七カ月が経とうとしています。入学当初の落ち着かない様子から徐々に生活にも慣れてきて、日々の寮生活や参拝、ご祈念の作法にも落ち着いた雰囲気が見られるようになりました。そして、それぞれに課題に直面し、時に悩みを深くすることもあったように思います。そのような中、本日、冬期在籍教会実習出発式を執り行わせていただきました。

夏期在籍教会実習を終えて帰院した学院生から感じたことは、在籍教会で、入学からここまでの自身を振り返り、その中で多くの変化を自覚することになったということです。そして、「また学院での修行生活が始まる」と襟を正す姿が見受けられました。そこからさらに学院での修行に取り組む中で、それぞれに新たな課題も出てきたのだと思います。

冬期在籍教会実習でも、それぞれが、ここまでの振り返り、より自分自身の成長と課題を自覚できるのではないかと

と思います。そして、卒業後のあり方についても意識する時期かと思えます。保証教会長先生には、そのところも含め、ご指導を頂ければと願っております。

私自身、学院生の頃を振り返れば、同期生や両親など、いろいろな人の言葉に支えられたことを思い出します。それは優しい言葉だけではなく、時には厳しい言葉の中に自分を見つめ、変わるとうとする自分と向き合うこともありました。学院は、人との関わりの中で、自分自身の正体を見せられ、そこから変わろうとする自分と向き合い、お育てを頂いていく場所であると思えます。そして、いろいろな人に祈られ



調理実習 (裁ち物)

ての自分があるということを感じさせていたたく場でもあります。他では出来ない貴重な経験ができる場所であり、時間であつたと気づかせていただきました。

入学式の時に教主金光様から頂いた「ここまでに受けたおかげを思い返してみてください」とのお言葉を改めて頂き直し、「ご恩を知りご恩に報いる生き方」をここからの学院生活で求め現わしていくことで、それぞれの修行の中身がより確かなものになり、卒業に向けての自身の在り方を求めていく修行になるよう、ともどもに取り組みせていただきたいと思います。

帰院後は、御霊地での厳しい寒さの中での修行となります。ここからも、心身の健康と修行成就を祈らせていただきたいと思えます。



修徳殿障子張り

## 日程

(冬期在籍教会実習まで)

8月	30	帰院式
9月	31	第三回 求道の日
9月	5	第一回 修徳殿入殿
9月	9	教話実習①
9月	16	修徳殿障子張り
9月	17	学院・秋季霊祭
10月	26	学院・秋季霊祭
10月	28	教祖百四十年生神金光大神大祭御用奉仕
10月	12	聖蹟巡拝(吉備路)
10月	14	教学研究所見学
11月	17	学院・教祖百四十年生神金光大神大祭
11月	1	第四回 求道の日
11月	8	第二十五回文化活動合同茶会
11月	18	聖蹟巡拝(寂光院方面)
12月	24	第二回 定期考査
12月	27	第二信心レポート懇談
12月	29	創設記念式・直信教会参拝
12月	1	第五回 求道の日
12月	7	布教功労者報徳祭並びに金光攝胤君六十年祭御用奉仕
12月	13	第二回 修徳殿入殿
12月	14	冬期在籍教会実習

# 「く」も「の」歩み

## ■ 聖蹟巡拝 (吉備路・寂光院方面)

金光大神の事蹟に関わる地を訪ね、金光大神の信心の足跡を辿るため、十月十二日に吉備路方面への聖蹟巡拝を実施した。まず、直信・片岡次郎四郎師の開かれた才崎教会に参拝し、会長から「みきの信心」について教話を拝聴した。その後、教祖四十二歳の事蹟に関わる西大寺観音院を参拝し、吉備津神社では正式参拝の後、鳴釜神事を仕えていただいた。さらに、他宗教への理解を深めるため、



才崎教会



吉備津神社



黒住教本部 (日拝所)

本教と同じく幕末期に開かれた黒住教本部を訪れた。本部神殿に参拝し、黒住教の信仰についての説明はもとより、朝日を拝む「日拝」が行われる「日拝所」にもご案内いただき、さらに資料館を見学させていただいた。

さらに、十一月十八日には大谷村の檀那寺である寂光院、氏神である加茂八幡神社へ参拝した。寂光院では、紅葉彩る庭園で法要を仕えていただき、一人ひとりご焼香をあげさせていただいた。また、川手家先祖、養父母の位牌も拝観させていただくことができた。



寂光院

## ■ 秋季霊祭・生神金光大神大祭

本部広前のご比礼を受け、学院広前において、九月二十六日に秋季霊祭、十月十七日に教祖百四十年生神金光大神大祭が執り行われた。

これらの祭典は、神様と学院霊舎に祀られる物故職員と学院生を合わせて二百三十二柱の霊神様のお働きを受けて、ここまでの学院修行を進められてきたことへのお礼と真心を現す祭典として奉仕される。

祭典に臨むにあたり、祭員は、少しでも神様、霊様がお喜び下さる祭典を仕えられるように一カ月ほど習札に取り組み、実意丁寧に祭典を仕えさせて



学院・秋季霊祭



学院・教祖百四十年生神金光大神大祭

いただいた。さらに、祭詞起草員は起草・浄書、調饌・祭事係は神饌物や紙垂の調饌と祭具の調整、楽人は奏楽、舞人は吉備舞等、初めての御用に戸惑いながらも、どこまで尽くせば神様、霊様への真心のお供えとなるのかを求めながら、学院生全員で御用を分担し



第四回 求道の日(金乃神道)

て、今日までのお礼の心をお供えさせていただいた。  
 学院生それぞれに御用を通して、神様、霊様への思いを寄せるいい機会となったのではないだろうか。

■第三・四・五回求道の日

学院生活の基本に立ち返り、自己の信心を正していくことを願い、原則として月の朔日を「求道の日」と定め、一日のはじめに教主金光様のお出ましを迎えさせていただき、終日黒衣で過ごし、講話、共励、覚筆写、徒步行等

を実施している。

第三回は、覚筆写と夏期在籍教会実習内容をもとに、個別懇談を行った。

第四回は、徒步行として、船着場である沙美海岸から教祖広前へ到る参拝道であった「金乃神道」を歩き、当時参拝された人々へ思いを巡らせた。また道中、金光四神様の奥様である高清姫様のご生家(安部家)にも立ち寄り、安部家の奥城にも参拝した。第五回は、午前中、教務総長岩崎道與師にお越しいただき、「教団の願い」について詳細にお話いただき、その内容をもとに午後から共励会を行った。

■文化活動合同茶会

木の葉も色づき始めた十一月八日、学院広前において、文化活動の合同茶会が行われた。合同茶会は、前期を通して文化活動で習得してきた成果を発表し、他の講師の先生方にも触れ合い、ほかの文化活動に対する理解を深めることを願いとしている。

書道では、書き手が大切にしている言葉を色紙に書いたものが展示され、その言葉に込めた思いをそれぞれが紹介した。典樂の演奏では、様々な楽器が美

しい音色を響かせた。合わせて吉備舞が奉納され、音を聴き、観る楽しさを味わった。茶道では、実際にお点前が披露され、菓子とお茶が振る舞われた。和やかな雰囲気の中で、身も心も温まる最高のひとときであった。

この半年間、ご指導いただいた先生方には改めてお礼申し上げます。



文化活動合同茶会

■創設記念日記念行事

十一月二十九日、創設記念日を迎えた。明治二十七年に神道金光教会学園所が創設されてより教師養成のことが

進められ、今年で百二十九年になる。

記念日当日は、午前八時より学院広前において創設記念式が執り行われ、引き続き、バスで教祖直信が開かれた笠岡教会、芸備教会のお広前に参拝



芸備教会(神徳書院)



笠岡教会(奥城)

した。そして、教祖様が厄晴れ祈願に参拝し、佐藤範雄師が本教独立を願って訪れた沼名前神社にも参拝した。

直信教会では、ご祈念、お届けの後、教会長より、初代にまつわる教話を拝聴し、初代の奥城にも参拝させていただいた。それぞれのお広前の初代が人助けの御用に当たられた地を踏みしめて、学院生は直信の先生が道開きに尽力された熱い思いを感じさせていただいた。



沼名前神社

■修徳殿入殿

本部広前の修行生としての自覚を深め、教主金光様の御取次を頂くことの意義を再確認する。そのことを通して、

お道の教師にお引き立てを願う者としての自覚が深まることを願いとし、入殿を実施している。

第一回(九月)は、「教師志願の理由や、在籍教会・各家庭の信心の歩みをもとに、現在、どのような信心の流れの中にいるのかを確認する」との願いとして、さらに第二回(十二月)は、「ここまでの学院修行で学んだことをもとに、本教の信心生活について求め合う」という願いのもと実施した。輔導、副輔導の教導を頂き、また修徳殿という場のはたらきの中で、それぞれに、ここまでの学院修行を振りかえり、今後の課題を認識できたようである。



第二回 修徳殿入殿

なお、来年三月には卒業後を見据えての、第三回入殿を実施する予定である。

■自主活動

学院では、学院生が願いを立てて、自ら主体となって企画から運営までを実施する自主活動を行っている。秋も深まる十一月には、映画鑑賞が企画された。作品を通して、改めて日本の宗教観について考えることを願いとし、『千と千尋の神隠し』を鑑賞した。鑑賞後には映像を振り返り、意見を交わしあう姿がみられた。さらに『ものけ姫』の鑑賞も続いて企画された。学



自主活動(映画鑑賞)

院生はそれぞれに、登場人物の台詞や仕草に注目し、そこから日本人の神観や人生観への考察を深めていた。本教祖のみ教えにも立ち返りながら意見を交わしあう姿が大変印象的であった。今後もこうした自主活動を通して、学院生同士が交流を深め、互いに高め合うことを願っている。



研究所見学

第1回 教話実習



# 学院生の

# 声!

心を育てる



広島県・芸備教会  
佐藤 武夫  
さとう たけお

私は同期生の中で一番と言ってもよい程、正座が苦手です。入学する前に「その内慣れるよ」と言われ、その言葉信じて、正座に慣れるよう御祈念もしてきましたが、入学当初は激痛でスリッパも履けない程、足が腫れました。今もまだ慣れたとは思えませんが、最近はずいぶん長時間の正座に耐えられるようになってきたと思います。ただ、私は、御祈念していてもしていただくても、長く座れるようになるまでの期間は変わってなかったんじゃないかと思えます。私が言いたいのは、「お願いすればおかげを頂けるのがあるが、お願いすべし」という事ではなく、「信心すれば、長く正座ができるようになった

事がありがたい』と気づけるようになる」という事です。よく「大難を小難に、小難を無難に」という御教えを耳にしますが、私は「大難が小難になった、小難が無難になった」と思えるような心を育てる事が信心の目標なのかと思ったりもします。しかし、今の私にはこの考えが正しいのか分かりません。自分の考えをはっきり持つよう、これからの修行に取り組んでいきます。



教祖百四十年生神金光大神大祭御用奉仕

## 答えはない!



岡山県・本部在籍  
金光 美千世  
こんこう みちよ

学院に入学させて頂き、半年が経ちました。沢山のお祈り添えを頂き、おかげを受け通してここまで来させて頂いたことに、有り難い思いで一杯です。学院での生活は、神様や親先祖様に私が願われていることは何か、今の自分はそれに沿っているか、沿おうとしているか、ということをよく考えさせられます。そうしていると、自信をなくし不安になることもよくありますが、



教祖百四十年生神金光大神大祭御用奉仕

お取次を頂いて、先生や同期生に話を聞いて頂く中で、多くの気付きを頂く日々です。きつと、先々のことにせよ、目の前の共同生活のことにせよ、正しい選択をしようと考えても、答えはないのだと思います。Aの道を選んでもBの道を選んでも後々のおかげにして下さるのがこのお道であり、大切なのは神様に心向け続けること、言葉では聞き慣れた様々なことを、実物に当たって分らせて頂いています。残りの修行生活でも、本質を分らせて頂き、私の命の役割を活き活きと歩ませて頂きたいです。



教祖生誕奉祝行事